

架け橋期カリキュラム

「園から小学校へ」

教師用

(2023年3月)



『主体的に学び 人とつながり 未来をひらく 鹿嶋っ子』

鹿嶋市教育委員会

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
～資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿～
※達成目標ではなく、どのような力が育ちつつあるのかをみとる。

(1) 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、**見通しをもつて行動し**、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、**自信をもつて行動する**ようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、**互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて**、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、**相手の立場に立って行動する**ようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と**折り合いを付けながら**、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、**相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ**、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになる。とともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、**多様な関わりを楽しむ**ようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、**新しい考えを生み出す喜びを**味わいながら、**自分の考えをよりよいものにする**ようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、**自然の変化を感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら**、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、**生命の不思議さや尊さ**に気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもち、関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに**親しむ体験**を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの**必要感に基づきこれらを活用し**、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを**言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし**、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを**自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし**、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

架け橋期(5歳児～1年生)のカリキュラム

(アプローチ・スタートカリキュラム)

園教育から小学校教育への架け橋期

卒園・入学	
5歳児 (幼稚園・保育園・認定こども園)	小学校1年生
架け橋期のカリキュラム (アプローチカリキュラム スタートカリキュラム)	
架け橋期に育てたい三つの力	
生活する力	関わる力 学ぶ力

育みたい資質・能力と架け橋期に育てたい三つの力
幼児期より育みたい資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱をもとに「生活習慣を身に付ける＝生活する力」「人と関わる力を育む＝関わる力」「豊かな心と意欲を育む＝学ぶ力」と整理しました。これら三つの力は「生きる力」の基礎となります。

交流・連携・接続

1 交流・連携・接続

①交流で子ども同士の交流活動や職員間の研修連絡会等の実施。



「職員間交流、相互の授業参観・保育参観、幼児・児童間の交流等」

②連携で互恵性のある活動。目的を共有しながら協力して取り組む。

③接続で教育内容や幼児教育施設と小学校における双方のカリキュラムをつなぐ。

【参考文献】

茨城県教育委員会
「茨城県保幼小接続カリキュラム」平成30年3月
鹿嶋市教育委員会
「鹿嶋市アプローチ・スタートカリキュラム」平成30年3月

文部科学省
幼保小架け橋プログラムの実施に向けての手引き
(初版)

令和4年3月31日

架け橋期（5歳児～1年生）のカリキュラム

～アプローチ・スタートカリキュラムを一体として捉えよう！0歳から18歳までの学びの連続性にも配慮しよう～

「このカリキュラムについて」 このカリキュラムは具体的な子どもの姿を記述してあります。特に幼児教育における記述においては到達目標（～できる）ではなく、育成に向けた教育の方向性（味わう・楽しむ・感じる等）を示しています。



アプローチカリキュラム 5歳児

～なめらかに接続～

スタートカリキュラム 1年生



1月～3月の姿より

生活する力

- <生活のリズム>
 - ・一日の流れや時間を意識し、見通しをもって生活しようとする。
 - ・午睡のない生活に慣れる。
- <食事・排泄>
 - ・食事のマナーを守って楽しく食べようとする。
 - ・一定の時間内に食べ終わることを意識して楽しく食事をする。
 - ・活動の区切りトイレを済ませる。
 - ・使用後の後始末や手洗いなど、ひと通りの流れを身に付ける。
- <身の回りの整理>
 - ・自分のものやみんなを使うものを大切に。
- <安全>
 - ・安全な遊び方や災害時の身の守り方を覚える。



関わる力

- <友達との関わり>
 - ・ルールを守り、友達と楽しさや喜びを共有して遊ぶ。
- <言葉による伝え合い>
 - ・生活や活動の中で、友達や先生との会話を楽しむ。
- <規範意識>
 - ・約束やきまりを守って生活する。



学ぶ力

- <体を動かす遊び>
 - ・戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを感じたり、いろいろなことに挑戦したりする。
- <感性や表現>
 - ・イメージしたことをいろいろな形で表現し、遊びに取り入れ友達と一緒に楽しむ。
- <自然との関わり>
 - ・自然と触れ合う中で、発見や気づきを楽しむ。
 - ・生活や遊びの中で数や文字などに興味をもち、楽しむ。
 - ・自分の名前を読み、また、書くこととする。
- <数量・図形や文字>
 - ・生活や遊びの中で数や文字などに興味をもち、楽しむ。
 - ・自分の名前を読み、また、書くこととする。
- <学ぶ姿勢>
 - ・友達と共通の目的に向けて考えを出し合い、協力して活動を進めていく。

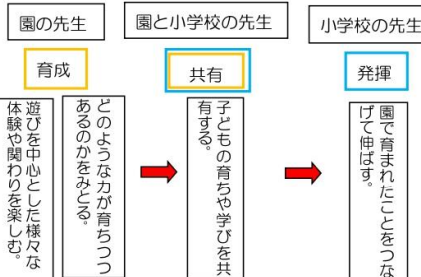


園での育ちや学びを小学校へつなぐ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
～資質・能力が育まれている具体的な姿～
※達成目標ではなく、どのような力が育ちつつあるのかをみる。

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

幼児が何を学んで（体験して）いるのか、どのように発達しようとしているのかを捉える手がかり



4月～5月の姿より

生活する力

- <生活のリズム>
 - ・学校生活を知る。
 - ・時刻に合わせて活動することができるようになる。
- <食事・排泄>
 - ・大人数のエプロンを着脱し、量で片付けることができるようになる。
 - ・大人数のトイレに慣れ、休み時間にトイレを済ませる。
- <身の回りの整理>
 - ・手順に沿って担当の場所の掃除をすることができるようになる。
 - ・学習用具の準備や後片付けなど、自分のことが自分でできるようになる。
- <安全>
 - ・交通ルール・通学路を覚え、安全に登下校できるようになる。



関わる力

- <友達との関わり>
 - ・友達を作り、友達関係を広げながら仲良く遊ぶ。
 - ・少人数によるグループ学習で、友達と協力する。
- <言葉による伝え合い>
 - ・集団生活と共に活動する中で、言葉で伝え合う楽しさを感じる。
- <規範意識>
 - ・学校のルールやマナーを守って生活する。



学ぶ力

- <数量・図形や文字>
 - ・正しくががなを読む。
 - ・10までの数について正しい書き方や読み方を知り、順序を理解する。
- <自然との関わり>
 - ・身近な自然を観察し、季節を感じて表現する。
- <感性や表現>
 - ・リズムに合わせて、感じたことを楽しみながら身体で表現する。
 - ・想像をふくらませて、作品をつくらしたり、描いたりすることを楽しむ。
- <体を動かす遊び>
 - ・いろいろな運動や新しい体の動きをまねて、楽しんで挑戦しようとする。
- <学ぶ姿勢>
 - ・友達と仲良く関わり、自分の思いを伝えようとする。



生きる力の育成

【遊びのプロセス】

- 興味・関心・好奇心をもってやってみよう！遊びを創り出す→遊びへの集中・没頭→遊びの繰り返し→遊びの振り返り
- 考える・試す・疑問・工夫・葛藤・こだわり・挑戦・協力・達成 など

遊びを通しての総合的な指導

5領域
・健康・人間関係・環境・言葉・表現

幼児期に育みたい資質・能力の三つの柱

知識及び技能の基礎

（豊かな体験を通して、幼児が自ら感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりすること）

思考力・判断力・表現力等の基礎

（気付いたことやできるようになったことを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること）

学びに向かう力、人間性等

（心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること）
※非認知能力と関連（目標・意欲・興味・関心、粘り強さ、協同性、優しさ、勇気など）

園での経験する遊びは小学校への学びの基礎

生活科を中心とした総合的・関連的な指導

各教科

- ・国語科・算数科・生活科・音楽科・図画工作科
- ・体育科・道徳科・特別活動

育成を目指す資質・能力の三つの柱

知識及び技能

（何を理解しているか、何ができるか）

思考力・判断力・表現力等

（理解していること、できることをどう使うか）

学びに向かう力、人間性等

（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

幼児期の経験を生かし自覚的な学びへ

【学びのプロセス】

やってみよう！を自分で見つけ出す→どうしたらできるか考える→協力してやり遂げる→振り返り

生活科のプロセス

思いや願いをもつ→活動や体験をする→感じる・考える→表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

この資質・能力は中学校・高等学校へ育成（育ちと学びの連続性）
幼児期に育てた力を引き継いで伸ばしていく

自発的な遊びの中で育まれ、小学校以降の学びに向かう力となる